

平成21年6月23日 教育委員会室にて

春日井市いじめ・不登校対策事業報告

平成20年度の取り組み

春日井市教育委員会

いじめ・不登校に関する取り組み

春日井市教職員研修会

- ・ 事例研究会
- ・ 講演会
- ・ カウンセリング技術向上研修会
(相談活動の充実・早期発見対応)

各学校での取り組み

- ・ 校内教職員研修での研修
(事例研究会で職員の共通理解)
- ・ 教育相談期間
- ・ 学校保健委員会

(ア) いじめ・不登校事例研究会

・ 実施日 平成20年10月29日(金)

・ 内 容 事例種別ごとに各校のいじめ

不登校指導事例の経過・成果

問題点を話し合う。

・ 参加者 教員、適応指導教室指導員、

スクールカウンセラー等70名

(1) 不登校をテーマにした教育講演会

・ 実施日 平成20年11月26日(水)

・ 講師 羽根 啓一(臨床心理士)

・ 演題

「いま 学校でできること
教師にできること」

・ 参加者 教員 75名

(ウ) カウンセリング技術向上研修会 (含 初任者研修)

- ・ 実施日 平成21年1月21日(水)
- ・ 講師 神戸 康彦 先生
(いじめ・不登校相談室相談員)
- ・ テーマ
「教師のための
コミュニケーションスキル」
- ・ 参加者 教員、初任者 80名

(I) 夏期教職員研修

カウンセリング実技研修会

- ・ 実施日 平成20年7月30・31日(水・木)
8月4・5日(月・火)
- ・ 講師 神戸 康彦 氏
(いじめ・不登校相談室相談員)
- ・ 内 容
研修 「構成的グループエンカウンター体験」
研修 「カウンセリング入門」
- ・ 参加者 教員 64名

問題を抱える子ども等の

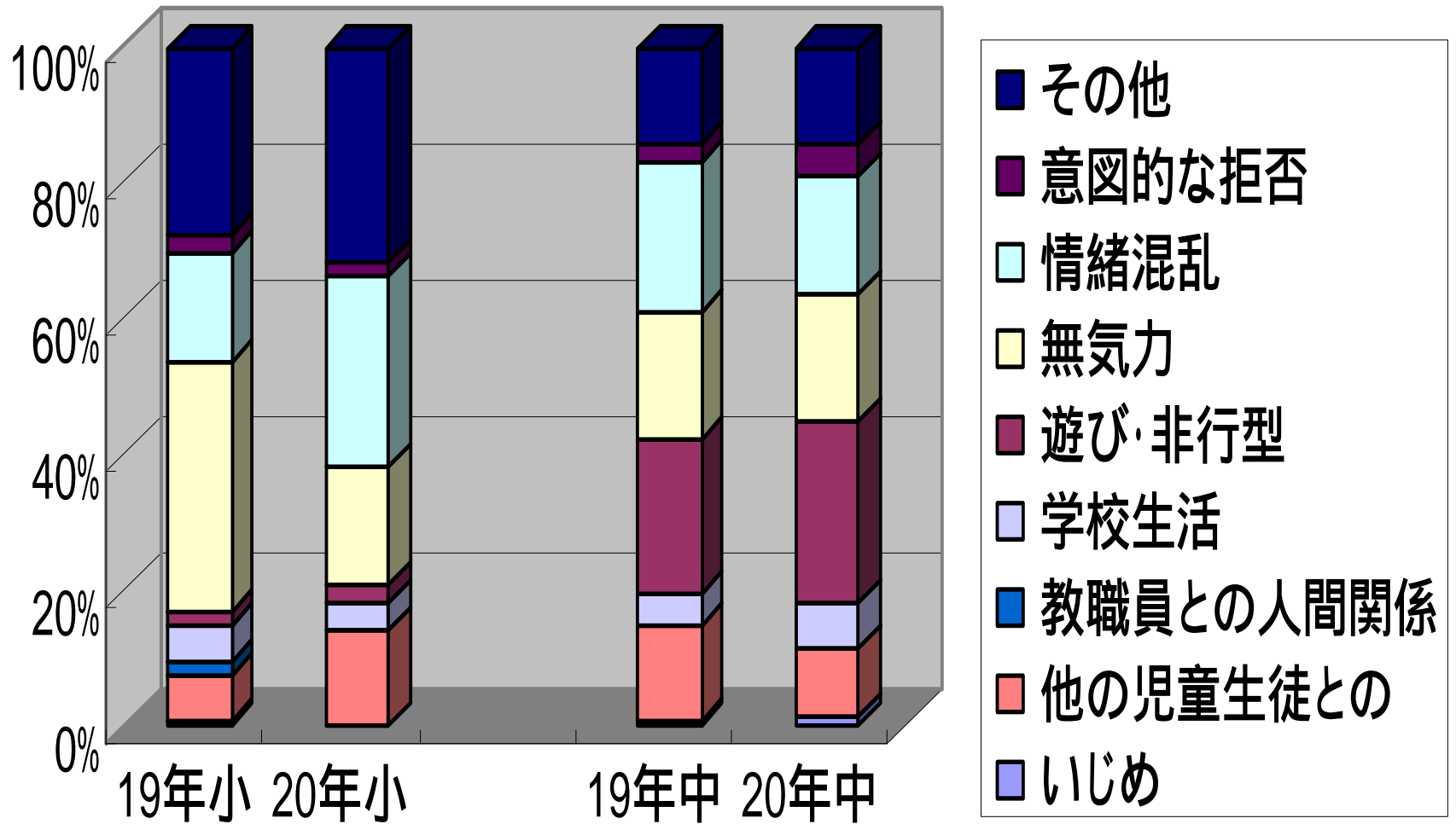
自立支援事業の報告

(文科省委託事業)

< 研究テーマ >

あそび・非行型不登校生徒の
学校復帰に向けた支援の在り方

2 理由別不登校児童生徒数



< 研究の視点 >

「ネットワーク・アドバイザー」を
活用した中学校区ネットワーク
の構築

調査研究の3つの柱

- ◆ ネットワーク・アドバイザーの活用
- ◆ 中学校区内のネットワークの構築
- ◆ 地域における居場所づくり

事業推進組織体制

自立支援事業推進委員会

連携

ケース会議

連携

自立支援協力者

助言

助言

ネットワーク・アドバイザー

校区内コーディネーター

連携

連携

自立支援協力校 A

支援協力校 B

自立支援活動内容

市内2中学校の協力校へ、アドバイザーが週1～2回の訪問をして対象生徒を核としたカウンセリングと校内支援体制づくりに取り組んだ。また、地域の受け皿づくりとして、支援協力者による体験活動等へ対象生徒の参加を促した。

2月

第1回ケース会議の開催

事業の説明

各調査報告

教育的ニーズの共有

支援の方向性を協議・検討

ケース会議(年4回)

- 地域の協力者代表、地元警察、児童相談センター、学校関係者、アドバイザー、市教委が、対象生徒への支援について協議・検討をした。
- 6月13日(金)、7月25日(金)、9月26日(金)、12月5日(金)

自立支援事業推進委員会

市教委、ネットワーク・アドバイザー

ケース会議

市教委、校区内コーディネーター(生徒指導主事)、
春日井警察少年係、校区代表者、ネットワーク・アドバイザー

自立支援協力者

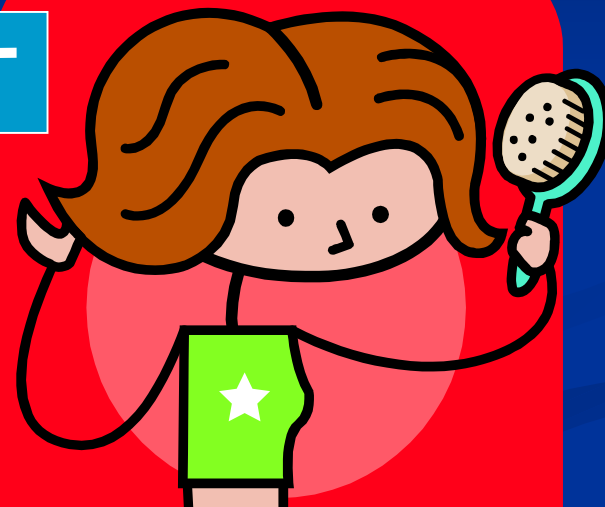
商工会青年部、民生委員、
保護司、柏原地区コミュニティーなど

活動内容

- 5月～2月に、12回の料理教室を実施
- 夏休み中に、7回の学習支援を実施
- 8月、柏原地区の夜祭りに協力員として参加
- 9月、柏原地区の防災訓練に協力員として参加

成果 その1

髪を黒く染め直す



一部の女子が授業へ参加

自分の想いを語りはじめた



成果 その2

商工会

民生児童委員

地区コミュニティ

地元警察

地域の
ネットワークづくり

地区育成会

更正保護女性会

中学校

市教委

相談活動の充実

小中学校への
スクールカウンセラー
心の教室相談員の派遣

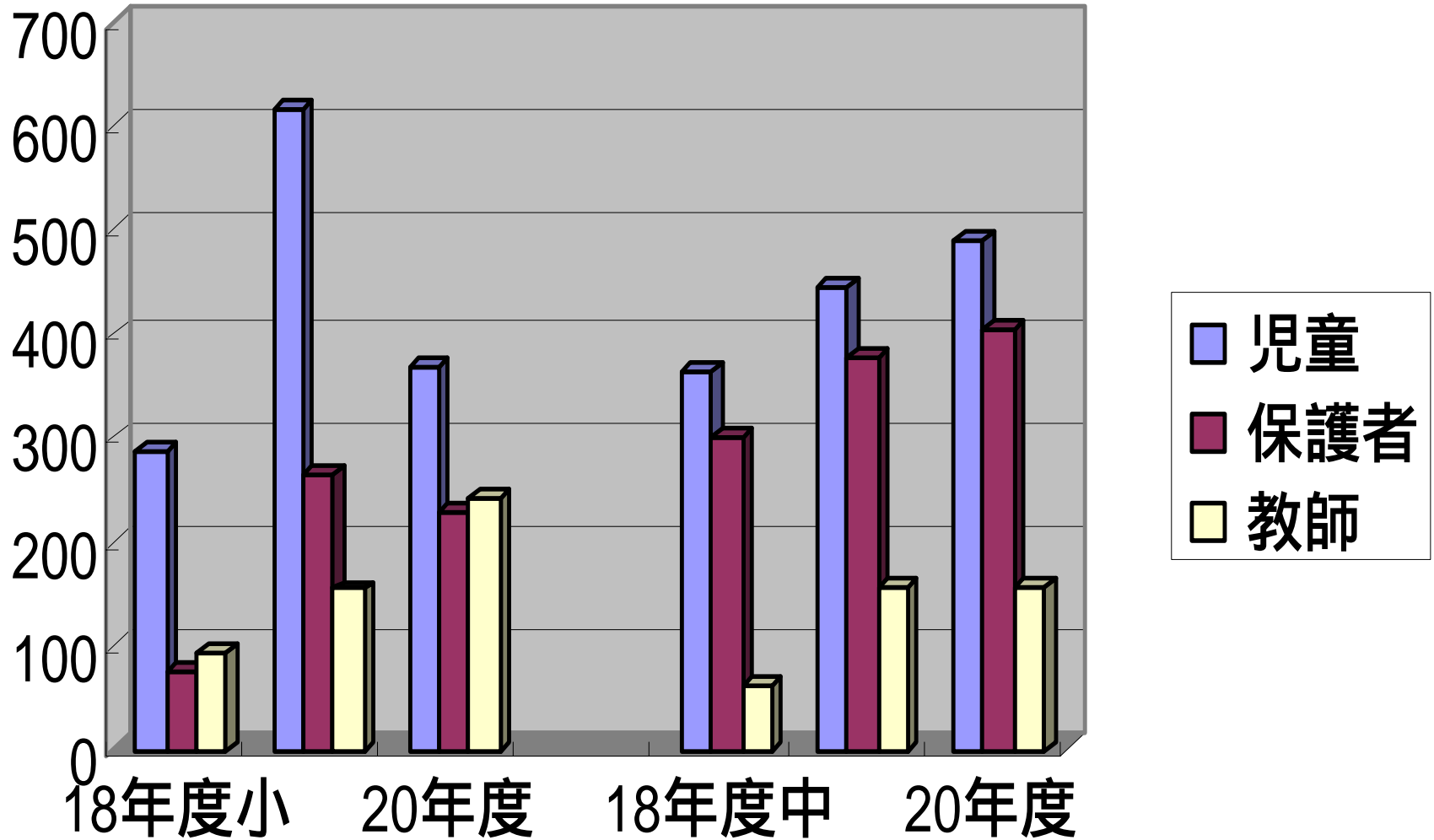
市スクールカウンセラー

5名のスクールカウンセラーを派遣要望のあった小中学校に派遣し、児童生徒・保護者・教職員に対するカウンセリングと教育活動への支援・助言を行う。

(ア) 派遣校数

小学校が10校、中学校が9校であるが、緊急に相談が必要なケースが出た場合は、その都度相談に対応している。

SC相談件数



スクールカウンセラーの成果

小学校でのカウンセリングでは、母親に定期的に相談活動を施すことで、母親の弧心の安定を図り、不登校傾向にあった児童が毎日これるようになった。

心の教室相談員

市内全部の小学校に派遣し、児童の悩み相談、話し相手として相談活動の充実と学校の教育活動への支援を行った

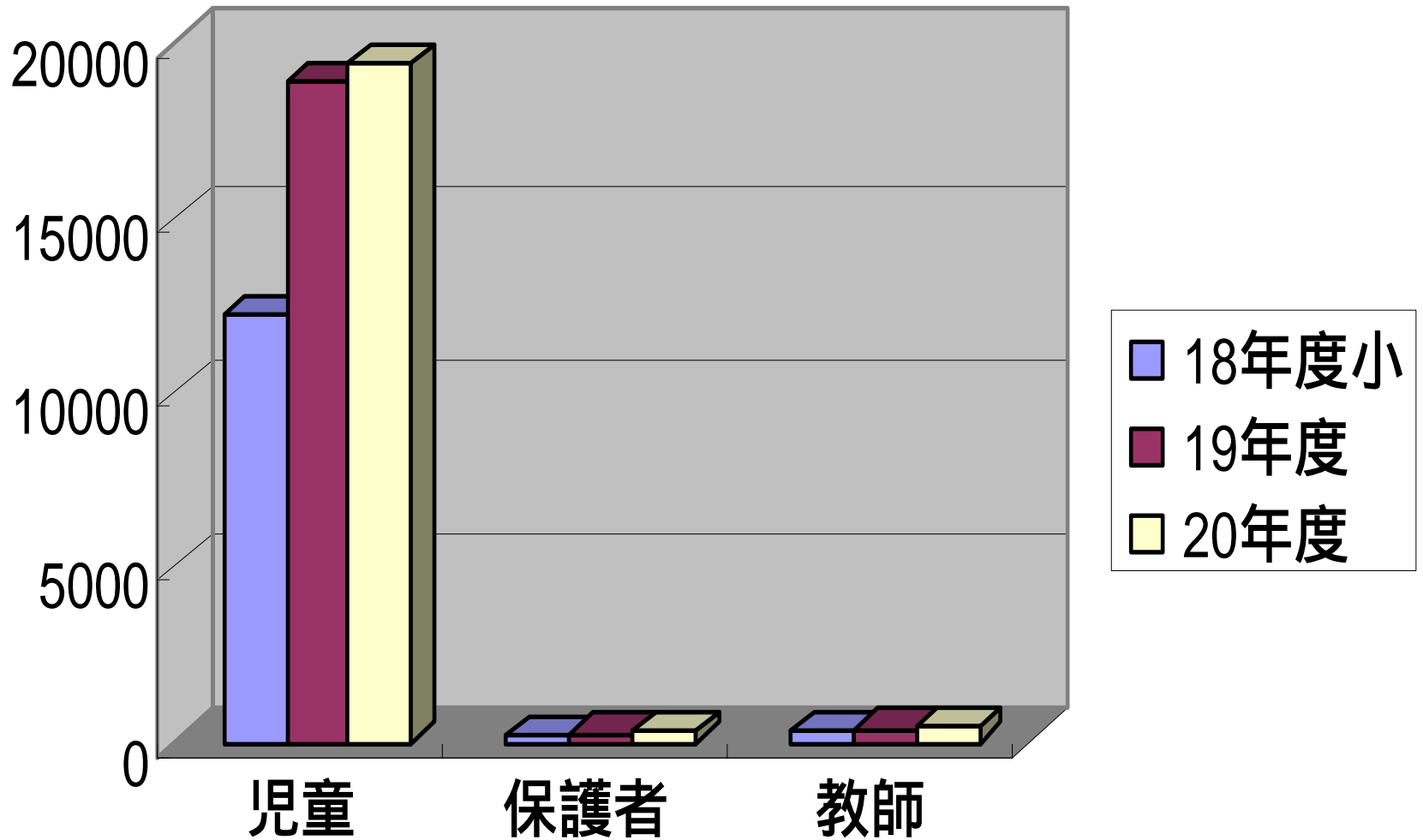
(ア) 派遣回数

週10時間(週2～3回程度)

(イ) 相談内容

友人関係、家庭、学校、いじめ、不登校

心の教室相談件数



相談室「ひまわり」 発達障がい相談

(ア) 相談回数 月4回
2月までの延べ相談

件数 101件

(イ) 相談内容 発達障がいがあると思われる
児童生徒の学校生活や学習

の改善に向けた相談

相談活動の充実に向けて

- 子どもや保護者が相談したいというタイミングを見逃さない！

相談内容

不登校の相談

発達障がいに関わる相談

保護者の安定

学校でのコーディネーターの育成

いじめ・不登校の 状況と課題

不登校 児童・生徒数の推移

不登校

1年間で30日以上登校できなかった
児童生徒数

平成20年度の 市内不登校 児童・生徒数

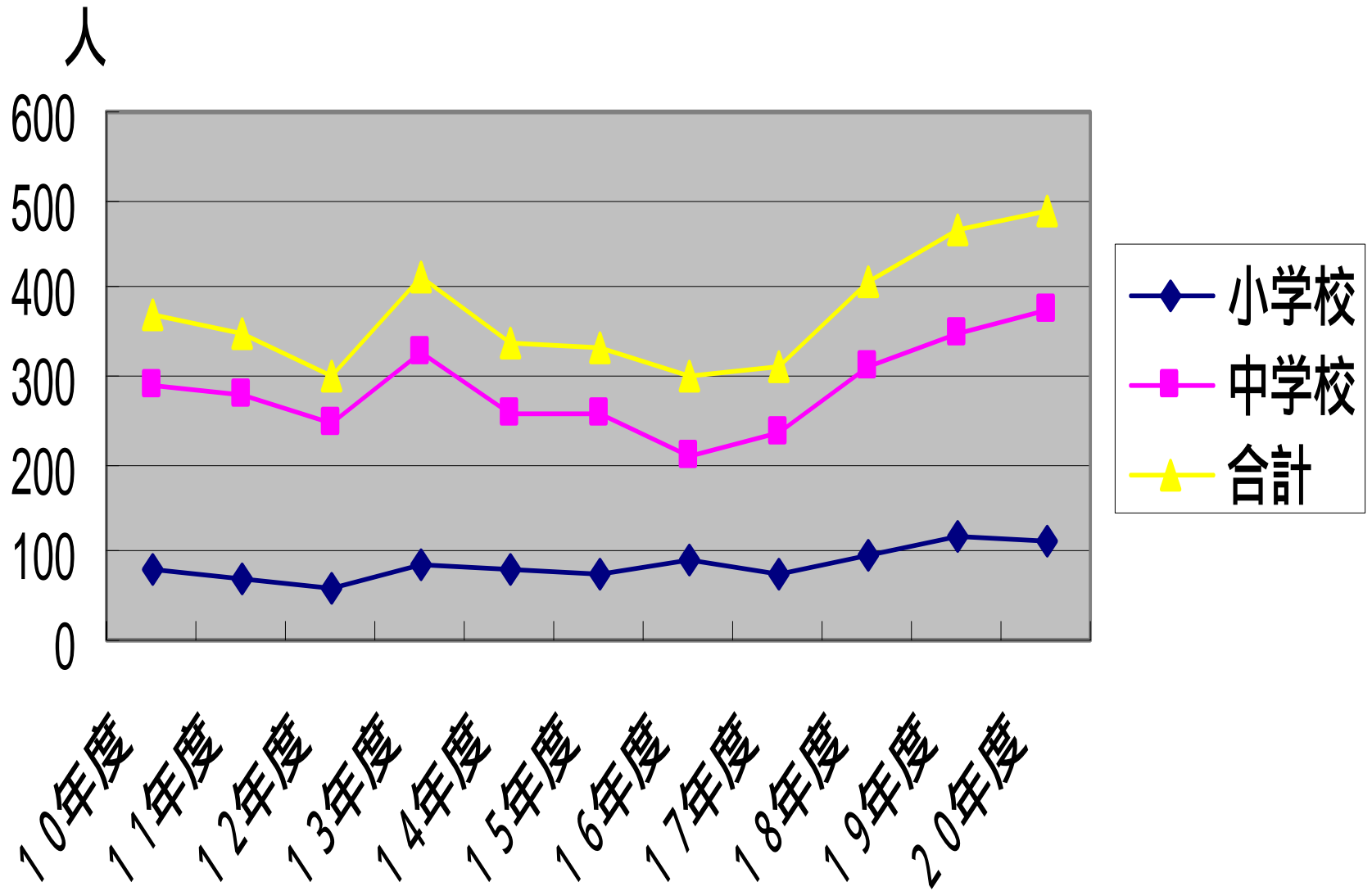
小学校 110名

中学校 376名

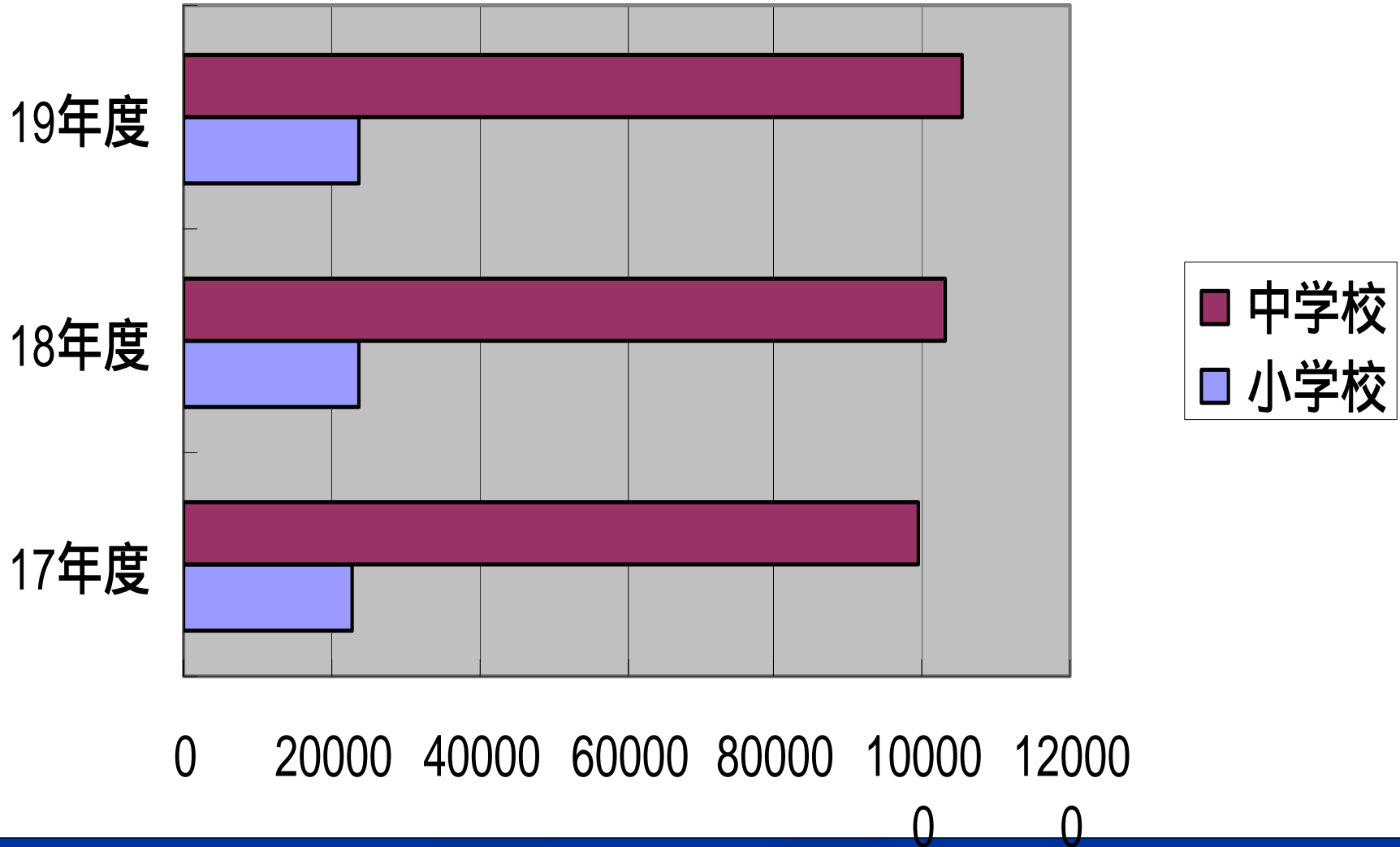
合計 486名

愛知県 8,098名(19年度)前年度より増加

1 不登校児童生徒数の推移



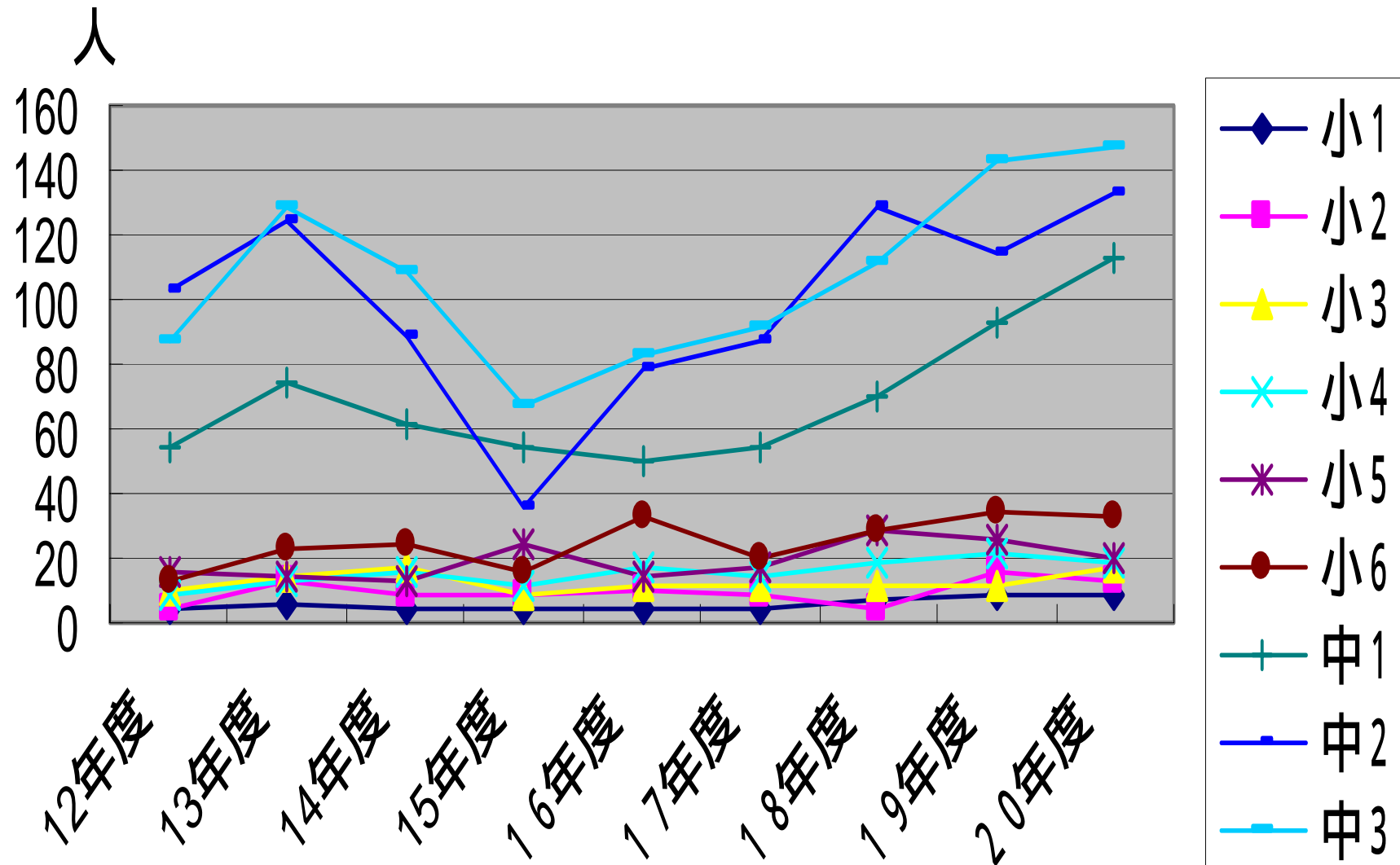
全国不登校児童・生徒数の推移



学年別 不登校児童・生徒数

- 中1ギャップ

2 学年別不登校児童生徒数



不登校が継続する理由

■ 小学校

「無気力」がもっと多い

「その他の理由」・・・家庭内の不和 養育能

力の低下

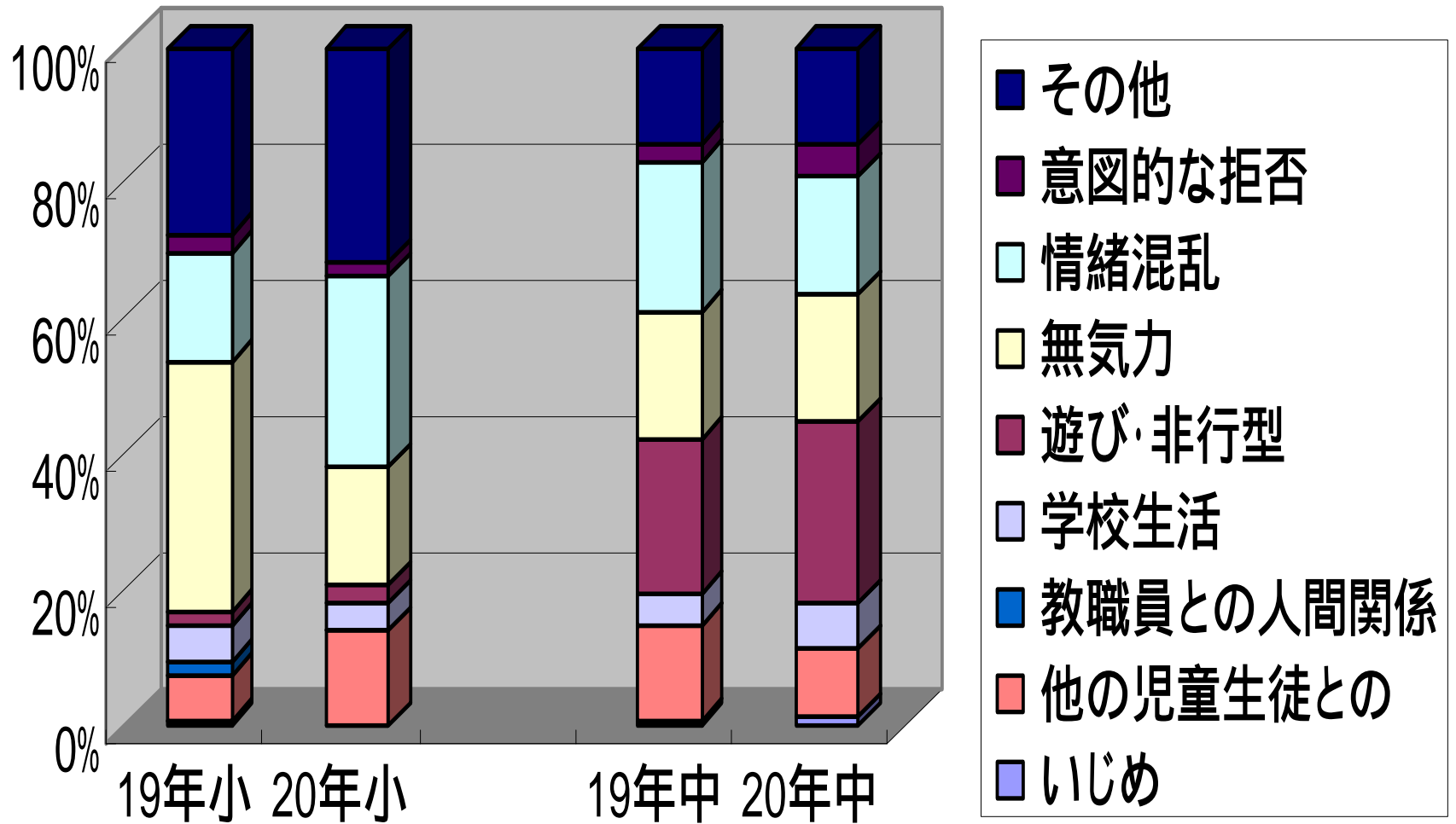
「不安による情緒混乱」

■ 中学校

「遊びや非行」がもっと多い

「情緒混乱」「無気力」「友だちとのトラブル」

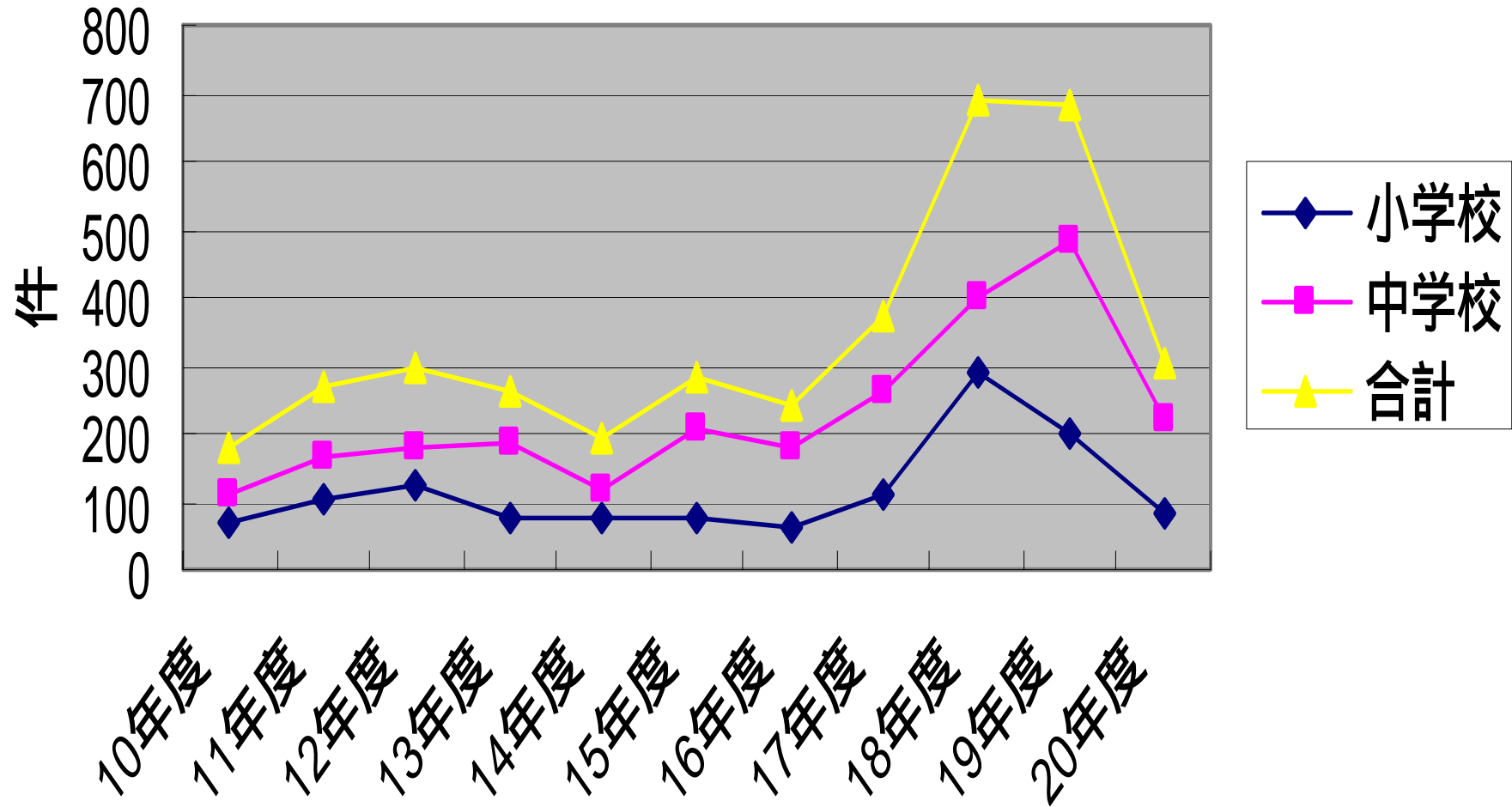
2 理由別不登校児童生徒数



いじめの件数

- 18年度途中に「いじめの定義」が見直され

いじめの件数及び認知数



10月

ヒアリングの実施

事業の概要説明

対象生徒の存在と現状

保護者の様子と家庭環境

学校の理解

11月

両校で打合せ

対象生徒の絞り込み

アドバイザーの活動計画

校内支援体制の現状把握

地域協力者の情報収集

カウンセリング、支援者発掘など

12月

ケース会議参加者の決定

推進委員会の定期開催

1月

ケース会議諸準備

具体的支援に向けた校区代表者との打合せ

3月

第2回ケース会議の開催



料理
教室



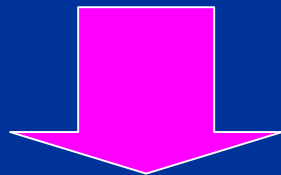
春日井
まつり

本年度の取り組み

支援活動の具現化

地域の受け皿づくり

校内支援体制の見直し



子どもを中心に据えた支援活動の推進

終

ご静聴ありがとうございました。